



東川町



テーブルには「ひがしかわボール」

ロシアへ東川米販売PR

「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール応募団体

東川町農業協同組合

【東川町】

産地一丸となって創り上げた東川米ブランドを世界へ！

はじめは？

東川町は、「大雪山国立公園」の麓にあり、大雪山の雪解け水が清涼な大地で濾過された地下水を生活水として使用している北海道で唯一、上水道が無い町です。この地域の特性を永続的に活用するため独自の東川米GAP基準（農業生産工程管理手法）を生産者とともに築き上げ、地域環境を守る取組を行っています。東川町のブランド米「東川米」は、日本国内において安定価格と量で取引されています。

また、更なる消費拡大を図るため、東川米を使用した加工品やレシピの開発を行い、イベント等での販売や、YouTube等のSNSを活用したPR活動を行っています。

おもな活動

東川米の認知度向上と消費拡大のため、東川米「ゆめぴりか」を原料とした「岩塚製菓株式会社」とのコラボ商品「ゆめぴりか煎餅」や、東川町の天然水「大雪旭岳源水」と「東川米」を使用した「三千櫻酒造株式会社」の日本酒、美味しく長期保存がきく「コープさっぽろ」PB商品の「無菌包装米飯」など、時代のニーズに合わせた「消費者に求められる」様々な商品を開発しています。開発した商品は、イベントでの試食会や、販売を通してPRを行っています。海外輸出事業では、令和3年度、台湾、香港、ロシアへ約210tの輸出が決まっています。世界に日本の米食文化と、東川米の美味しさを発信するため、令和元年にはロシア日本大使館で行われた、天皇誕生日祝賀レセプションにて「ひがしかわボール（東川米と全国各地の食材を合わせた丸型のおにぎり）の試食会を実施し称賛されました。

ここが自慢

【安心で安全そして美味しい東川米】

東川町の恵まれた環境から、「北海道神宮神饌田」に選ばれ、40年以上前から道内で唯一、北海道神宮にお供えするお米を作っています。

さらに、綺麗な水と豊かな気候風土で恵まれた環境に甘んじることなく、高い品質と安全性を追求し、東川米GAP基準（農業生産工程管理手法）を導入し、その取り組みが評価され、平成24年には北海道米初の特許庁地域団体商標「東川米」として商標登録されました。

令和元年度には、ゆめぴりかの生産技術と美味しさを競う「ゆめぴりかコンテスト」で、最高金賞に選ばれました。



ゆめぴりかコンテスト2019(金賞)

連絡先

代表者名：組合長 梅井功さん／設立：1968年／組員数：1,614名

住 所：北海道上川郡東川町西町1丁目5番1号

電話番号：0166-82-2124 （営農指導課 本庄）

F A X：0166-82-2557

E-mail：einou@ja-higashikawa.or.jp

U R L：http://ja-higashikawa.or.jp/